



日頃からやよい図書館をご利用いただきましてありがとうございます。

まだまだ暑い日が続きますが、カレンダーは9月になりました。夏休みの間にたくさんのことを経験した子どもたちの成長が見える季節ですね。本をたくさん読んだ人も、確実に「こころの力」がついています！ すぐにはわからないけれど、それはとてもとても大切なものです。そして季節はまさに読書の秋の到来です。スポーツも勉強も芸術も（そして食欲も？）もちろんとてもいいですが、ぜひ好きな本を楽しんで読んでください。小さな子どもが同じ本を何度も読んでもらいたがるのはとても大切なことだそうです。ぜひこころゆくまで読んであげてください。今月もやよい図書館ではいろいろな新しい棚を用意してお待ちしています。

俺の一冊・私の一冊

中央本町地域学習センター・やよい図書館で働くスタッフが、それぞれ自信を持っておすすめする1冊をご紹介します。みなさん、ぜひ読んでみてください！！

館長の一冊

『ぼくがいま、死について思うこと』 椎名 誠/著 新潮社

椎名誠といえば、「怪しい探検隊」や「岳物語」など人気シリーズを持ち、幅広いファン層で知られる作家ですが、いつのまにかこんな書名の本を出す年齢になっていたのですね。世界中の辺境の地を愉快的仲間と共に旅をし、焚き火を囲んで大好きなビールを飲む椎名さんは、今や3人の孫を持ち、その一人に「じいじいも死ぬの？」と問いかけられます。格闘技で鍛えた体力自慢のじいじいは、なんと応えたのでしょうか。じいじいとして保育園に送っていく穏やかな時間に幸せを感じながら、自身のこれまでのあやうい体験や世界の葬儀事情などを軽やかに語ります。今までにないシーナ、必読です！

俺の一冊（中村）

『約束の冬』 宮本 輝/著 文藝春秋



「空を飛ぶ蜘蛛を見たことがありますか？ ぼくは見ました。蜘蛛が空を飛んで行くのです。十年後の誕生日にぼくは二十六歳になります。十二月五日です。その日の朝、地図に示したところでお待ちしています。お天気が良ければ、ここでたくさんの小さな蜘蛛が飛び立つのが見られるはずですよ。」蜘蛛が空を飛ぶ？ 思わず本を手に取りました。その後の初冬、新潟へ車旅をした時、蜘蛛の糸が飛んでいるのを見ました。子どもの蜘蛛が糸を出し風に乗って運が良ければ数千キロ旅するそうです。のどかな田園風景と空を飛ぶ蜘蛛の糸・・・とても思い出深い旅になりました。

私の一冊（大屋）

『脳からストレスを消す技術 セロトニンと涙が人生を変える』 有田秀穂/著 サンマーク出版
皆さんはストレスを感じたことがありますか？ 人間関係など様々な悩みを抱えることはもちろん、私のようにのん気！？ と呼ばれる人にも・・・人は生きているだけで何らかのストレスを感じます。この本には薬では効かないと言われている「現代型うつ病」の発生原因と改善法が脳科学の視点から書かれています。そして興味深いのは「涙」！（特に号泣）は脳内の緊張をほだき、前頭葉の血流を良くし、大きなストレス解消効果があるそうです。泣き虫さんは実は自分を癒し、心身の健康を守る達人だったのですね。話題の「涙活」をこの本で始めませんか？

読書の窓



9月 お菓子が食べたーい！！

9月29日は「洋菓子の日」です。菓子職人の守護聖人である聖ミカエルの祝日を記念した日です。食欲の秋、お菓子もおいしく感じる季節ですね。つついお菓子が食べたくなるような本を紹介します。

『かわいいもの甘いもの



天然生活ブックス』
桑原奈津子/著 地球丸

北欧のお皿や動物型のクッキー、コロんとした姿のジャムの瓶といった「かわいいもの」と、甘いお菓子を組み合わせたレシピ集です。実際のお菓子作りに活用するのはもちろんですが、写真集やエッセイとして眺めるだけでも楽しめる1冊です。

『シュトルーデルを焼きながら』

ジョアン・ロックリン/作 偕成社
ねり粉をうすくのばしてあまく煮たリンゴやクルミを包みこみ、くるくるたたんでオープンへ。シュトルーデルとは、ユダヤ人の家庭に伝わる、伝統的なお菓子です。このお菓子作りでもっとも大切なもの、それは「おはなし」。シュトルーデルとは、家族の歴史をたっぴり練りこんだ、特別なお菓子なのです。

『自由が丘スイーツ物語



ケーキで人を幸せにする街』
阿古真理/著 NTT出版

日本西洋菓子史を支えた老舗も多くあるスイーツの街、自由が丘。この本はそんな歴史やお店を紹介しています。巻末に紹介されているお店の地図も掲載してあるので、この本を片手に自由が丘でスイーツ巡りをするのはいかがでしょうか。

『チョコレートTV』

水野宗徳/著 徳間書店
社名の由来は「謝罪に行くときの贈答品がチョコだから」と裏でいわれる、映像製作会社チョコレートTV。ドラマにバラエティ、一つの番組を作るまでの社員の奮闘を描く短編集。またそれぞれの作品には実在するチョコレートの商品が登場します。皆さんもこの本を読んでチョコレートを食べてみませんか？

『チョコレート・アンダーグラウンド』

アレックス・シアラー/著 求竜堂
国民の半数以上に「支持されずに」政権を握った健全健康党がある日、「チョコレート禁止法」を発令した。人々がそんな状況に反感を抱きながらも命令に従うなか、2人の少年が自由とチョコレートを求めて立ちあがった！ 現代の大人たちには少し苦い物語。単なる小説と思わずに、一度ご賞味あれ。

☆読書の小窓☆

スパイ映画といえば何を思い浮かべますか？ 銃撃戦や爆弾の末、最後は必ず素手で殴りあうというのが「スパイ映画」のイメージなのですが、『裏切りのサーカス』はそんな印象を見事に覆してくれます！ 寡黙で無表情の男スマイリーが組織内にいる内通者を探すお話。ゲイリー・オールドマンの渋い演技にご注目ください。格好いいよ・・・！